

りんごだより

草笛学園 2025年 (12月号)



あっという間に月日がたち、今年も残すところあと一か月となりました。朝晩は冷え込むようになり、いよいよ冬の到来です。子どもたちにとってはクリスマスやお正月、楽しみがいっぱいですね。体調を崩さず、元気に過ごせたらよいですね。



「イヤ」の裏側にあるもの

「大きい自分になりたい」願いをもっている子どもは、自分より大きい存在として、「ごはん食べなさい」などと指示してくるおとなの姿勢が受け入れられないのでしょうか。そして、願い通り大きい自分になればいいのですが、まだ自分ではできないことがいっぱいあり、おにいちゃん、おねえちゃんとしては、まだまだ認めてもらえない存在なのです。「イヤ」は、子どもが小さい自分から大きい自分に生まれかわろうと願っているのに、現実にはそうなれないで葛藤している心のあらわれといってもよいのではないのでしょうか。

この葛藤は、「大きい自分」を実感し、そして他者からもそれが認めてもらえることを積み重ねながら、しだいにのりこえていくものです。だからこそ、集団のなかで「おにいちゃん」「おねえちゃん」としての自分を実感できる場面がたいせつです。そう考えると保育園は、いながらにして「大きい自分」を実感し、発揮できるすばらしい舞台にみえてきます。

～中略～

そうはいっても、「イヤ」にどう対応するかは、そのときそのときで考えなくてはなりません。「イヤ」に正面から立ち向かって、子どもは大人の願いを受け入れてはくれないでしょう。子どもは自分のことを「大きい」存在として認めてもらえるかどうか、おとなの心に疑心暗鬼なのです。いわば「イヤ」という電波を発して、おとながどう反応するかをみているのです。だから子どもの「イヤ」を頭から否定してはならないでしょう。しかし、「イヤ」を受け入れるだけでは、子どもの本当の願いを理解することにはなりません。子どもが自分で納得して、その「イヤ」をふところにしまい

こめるだけの時間的な余裕や、子どもにとっての「きっかけ」が必要なのではないのでしょうか。たとえば、「じゃあ、ごはん食べる前におかあさんに、じょうずな〇〇みせてくれるかな」と、「大きい自分」が発揮できる舞台を用意してみましょう。このことは、けっして子どもを誘導しようとするものではありません。子どもの大きくなりたい願いがわかり、それを尊重できるおとなの心を伝えるのです。「大きい自分」が表現できるときに、子どもは他者を受け入れる心の窓を、少し開いてくれるはずです。

参考文献：白石 正久 著「子どものねがい 子どものなやみ」



次回のりんご教室は…

りんご教室①… 1月6日(火) 9:20～11:15

→『つくってあそぼう』を行います

◎持ってくるもの：水筒・シューズ・必要に応じて着替え

※製作を行います。材料費として100円を用意してきてください。

りんご教室②… 1月20日(火) 9:20～11:15

→『つくってあそぼう』を行います。

◎持ってくるもの：水筒・シューズ・必要に応じて着替え

※製作を行います。材料費として100円を用意してきてください。

参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費はありません。制作や、クッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡いたします
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください

